



特集

クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブ

多寄スポーツクラブ ＜北海道士別市多寄町＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブ運営側の努力に加えて、地域住民が自ら「こうしたらいんじゃないか」と発言し、活動に参加していけるような組織であることが重要です。

そこで今回は、クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① 「多世代交流」を目的にイベントの内容を変更し、参加人数が増加!
- ② 体育協会との表裏一体の組織運営で互いを補完することで、多くの住民が支援!
- ③ 横断的に人を集め、コミュニティ間の交流を促すことで地域課題を解決!

1 クラブ概要

多寄スポーツクラブ(以下、多寄SC)のある士別市多寄町は北海道北部に位置する農村です。夏は暑く、冬は寒い、一年の温度差が60度にもなる地域で、主産業はズバリ! 農業です。住民も、農家・元農家・農協職員・土地改良区職員など農業関係者がほとんどを占めています。

士別市は最後の屯田兵村の一つです。多寄町では1900年に入植がはじまり、1909年に多寄村が発足しました。1954年、一町三村が合併し士別市が誕生。その二年後の1956年に多寄町体育協会が設立されました。その後1975年に多寄町民体育大会(後に町民フェスティバルに改称)が始まりました。多寄町はその誕生当初からスポーツが盛んな地域でした。

こうした背景のもと、1997年に総合型SCの育成モデル地区の指定を受け、多寄SC協議会が設立されました。当時の多寄町体育協会会長である山崎前会長の掛け声のもと、町民一同一致団結。石川事務局長や佐々木現会長らが中心となって事業を立ち上げました。当時は少ない事例の中、手探りで活動していました。その後、試行錯誤もありながら、士別市体育協会・多寄町体育協会の支援もあり、2000年に多寄SCを発足。時を同じくして、自分たちの手で40㎡のクラブハウスを建設しました。

多寄SCは当初より「多世代交流」を目的に活動しています。例として町民フェスティバル(町民体育大会)を挙げます。通算で42回の歴史を重ねている大会です。そして、今までに大きな変更が二度行われました。

一つ目は、12年前の30回大会の時に名称を変更したことです。もともとは体育大会という名の通り、競技性の強い種目が多く、一日かけて本気で競い合うような内容でしたが、高齢者

人口が増える中、参加者が減ってきていました。そこで大会の目的を「交流」へシフトしました。名称も町民体育大会から町民フェスティバルに変更し、午前中で終わるようにしました。

二つ目が多寄保育園との合同開催です。多寄町には保育園があり、現在10名前後の園児が登園しています。6年ほど前から園児たちのお遊戯や徒競走などもフェスティバルの中で行うことにしました。それにより、今まであまり来ていなかった20~40代の親世代が来るようになり、孫の活躍する姿を見に祖父母の代も来るようになり、また普段子供と接する機会のない方々も子供たちを見られるようになりました。

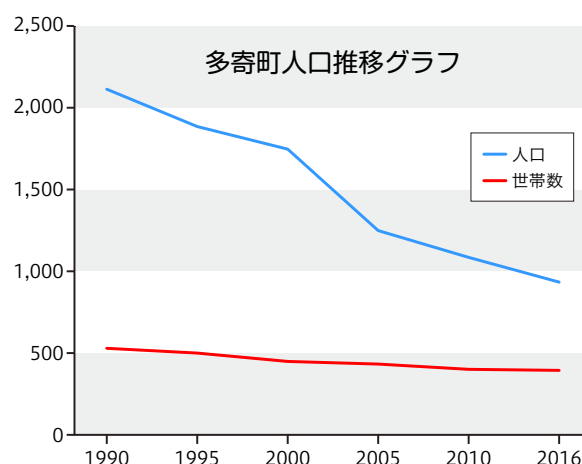


2

地域住民がクラブ運営に参画するようになった経緯・内容

多寄SCができた当時、多寄町の人口は1,433人、世帯数は472戸でした(平成13年現在)。現在人口が936人、世帯数400戸です。また、会員数は現在一般・少年団合わせて239人(平成28年度現在)。人口の約4分の1が会員ということになります。世帯数がさほど減っていないことが、独居世帯の増加を示しています。日本全体で人口減少が続いている中、町内の人口が減っていくことは避けられないこと。では、いかに減少を和らげそのショックを減らすかがポイントであると考えています。

人口減少によって何が問題となるかという点、「1.社会的な孤立：精神的身体的な健康状態の喪失、2.社会関係資本の減少：機械や労働の貸し借り、産業の発展に不可欠、3.社会的伝統の喪失：神輿・盆踊り・雪祭りなど」が考えられます。それぞれ農村社会の存続に不可欠なものです。それをいかに維持しながら軟着陸させるかが、地域スポーツクラブが果たせる地域貢献の一つだと思います。



3

地域住民に参画していただくための工夫等

多寄町はもともとスポーツが盛んな地域です。それは例えば、多寄町体育協会は士別市ができた頃と同時期に設立されており、すでに60年以上の歴史があるところからも読み取れます。現在、体育協会へ自治会費を通してほぼ全戸から会費をいただいております、『オール多寄』で支援している状況にあります。全ての住民がなんらかの形で多寄SCや体育協会とかかわっていて、もはや自治会と同レベルで見られています。

多寄町体育協会はスポーツの普及、多寄SCは多世代交流をそれぞれ目的としており、互いに補完関係にあります。役員も半数以上重複しており、まさに表裏一体の組織運営がされています。この役員ですが、スポーツクラブで41人、体育協会37人と、その規模からずいぶん人数がいるように思えるかもしれませんがその内29人が重複しています。そのうえ、農家と非農家のバランスを考えて構成されており、相互のコミュニケーションの促進が図られています。

また、自治会会長や小中学校の校長等もメンバーとなっています。スポーツは職業や経営に左右されないきわめてニュートラルな存在なので、垣根を越えて情報交換ができるツールとして最適です。

また、事務局長が自宅横の古い住宅を、バーベキューも楽しめるスペースに改装しました。町民が徒歩で移動できる場所に第二のクラブハウスができたようなものです。そこで会議や食事会もできます。最近、事務局長手づくりのピザ釜も完成し、多寄町住民のサロンとして交流を促進しています。



4 他の地域住民への効果・影響等

例えば、クラブに参加していることで健康増進や競技力の向上につながることもあると思います。しかし、一番重要なのは多世代交流を通じて、先ほどあげた三つの課題の解決に貢献しているということです。現役世代を見てみると、同じ地域に住んでいても、実はなかなか交流する機会が少なかったりします。各々のコミュニティ、例えば農協や農事組合、作目別部会などでの交流はあるものの、世代の違いなどもあり接点がないとなかなかコミュニケーションが難しいこともあります。また、外に出る機会をつくることで、独居世帯が増え、高齢者の孤立が心配される現状下、住民同士の会話が健康管理にも繋がります。

多寄SCは多寄地域において、横断的に人を集め、コミュニティ間の交流を促し、そのつながりを深める役割を果たしています。

5 運営スタッフ募集の際のリスクマネジメント

多寄SCは、現在有給の専属スタッフを雇用しておらず、すべて住民によるボランティアによって支えられています。したがって、どのような方がスタッフとして参加されても対応できるよう、マニュアルが作成されています。例えば町民フェスティバルでは細かな配置図が描かれており、対応が容易になっています。

6 今後の課題・展望

人口が急速に減少していく中、クラブとして地域にどういった貢献ができるのか。非常にチャレンジングな問いであると思います。多寄SCの強みは地域に特化していることだと考えていますが、同時に人口が減少していく中で、現状の取り組みを維持していくことは難しいと思います。

また現在、士別市からの助成を受けていますが、どこの自治体も財政状況が厳しい中、いつまでも助成が続くとは限りません。したがって、自主財源を得て経営を安定化し、いかにサービスの質を下げずに行うことかが、ますます求められるようになります。

具体的には法人化と指定管理で安定的に収益を安定化させること、そして町外の会員を増やしていくことの二点を目指しています。組織運営については、町のボランティアスタッフを中心にしつつも、有給スタッフを導入していき、さらに、会員が全て農業関係者であることを活かし、スポーツと農業の接点を探してビジネスに発展させられたら面白いと思います。

(多寄スポーツクラブ クラブマネジャー 谷 寿彰)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成12年4月1日

所在地 : 北海道士別市多寄町

運営 : 会員数 : 239名 (平成28年4月現在)
予算規模 : 90万円 (平成28年度)

有給職員 : 0名

クラブ内資格 : 日体協公認クラブマネジャー 1名

保有者数 : 日体協公認アシスタントマネジャー 2名

特徴 : 多寄スポーツクラブは稲作の北限にほど近い北海道士別市多寄町に位置しています。日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成モデル地区事業指定を受けて、平成9年10月22日にクラブ育成協議会が設立され、平成12年4月に多寄スポーツクラブを設立しました。「多世代交流」を目的として活動しており、町民手作りのクラブ運営を進めています。

【事業内容】

- 町民フェスティバル
- 町民パークゴルフ交流大会
- 札幌ドーム視察研修
- 町民健康教室
- 筋肉番付インたよろ
- 町民ミニバレー大会
- 町民卓球大会
- 町民スキー教室&大会
- 生涯スポーツ全国会議派遣